～ちばと海外の接点～

（1）ちばに砲台がつくられた！

1853（嘉永6）年にアメリカのペリー提督率いる黒船4隻が浦賀に来航しました。このころには，開国を求めて日本へ外国船がひんぱんにやって来るようになっていました。このような情勢の中，館山市の洲崎や南房総市の大房岬などには兵を置く施設である陣屋や大砲を備える砲台がつくられました。

大房御台場図（館山市立博物館蔵）

大房岬砲台跡〔写真提供：南房総市教育委員会〕

なぜ，洲崎や大房岬に陣屋や砲台がつくられたのでしょうか。それは，徳川幕府の玄関口と言える江戸湾（現在の東京湾）の入り口に位置しているからです。外国から，将軍のおひざもとである江戸を守る目的で陣屋や砲台をつくったのです。

明治から昭和のはじめにかけて，洲崎から富津岬にかけて「東京湾要塞」と言われるいくつもの砲台がつくられました。これも首都東京を守るためのものでした。これらの地域には現在も戦争遺跡が数多く残っています。

（2）千葉県にある日本の空と海の玄関

空の玄関：成田国際空港
〔写真提供：成田国際空港㈱〕

海の玄関：千葉港
〔写真提供：県立中央博物館〕

日本の高度経済成長にあわせ，航空機による輸送の重要性が高まりました。これを背景に1978（昭和53）年，現在の成田国際空港が開港しました。現在，国際航空貨物取扱量は約196万t（2009年）で，国内の空港の貨物の約7割を占めています。また，輸出と輸入の金額で見ると，海の港も含めたすべての港の中で国内第1位となっています。なぜ，海の港よりも輸出額，輸入額が多いのでしょうか。それは航空機による輸送が，コンピュータや半導体といった小さくて軽く高価な品を運ぶのに適していたからです。

千葉港は鎌倉時代，現在の千葉市都川河口付近に寒川湊と呼ばれる船着場があったことから始まると言われています。現在の千葉港は，市川市から袖ケ浦市にかけて133kmに及ぶ日本一広い港です。貨物取扱量は約1億6千500万t（2008年）で，名古屋港に次ぎ全国第2位となっています。なぜ，日本有数の海の玄関となったのでしょうか。それは，京葉工業地域が形成されていること，東京に近いことなどがその理由です。

このようにわたしたちの千葉県は，幕末から昭和のはじめにかけては国を守る場所として，その後は日本と外国を結ぶ国の玄関として，重要な役割を担っているのです。